

杉並区の人口推計

1 推計の考え方

杉並区実施計画（平成20～22年度）の策定にあたり実施した杉並区将来人口推計（平成20～29年までの各年1月1日の推計）における推計方法を採用する。

2 推計内容

- (1) 推計時点 平成19年から平成66年（2007～2054年）までの各年1月1日
- (2) 性別・年齢区分 男女別・合計数値のみ
- (3) 区域区分 杉並区全域のみ

3 推計方法等

- (1) 推計方法 コーホート要因法
- (2) 推計基準年 平成19年1月1日
- (3) 推計基礎数値
 - ・杉並区地域地区別人口集計（平成12～19年各年1月1日）
（住民基本台帳及び外国人登録の人口・世帯数集計）
 - ・平成12年都道府県別生命表（厚生労働省）
 - ・日本の都道府県将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所*以下、社人研という）（平成19年5月推計）「将来の合計特殊出生率（東京）」
 - ・日本の将来推計人口（社人研）（平成18年12月推計）より「合計特殊出生率の推移：中位・高位・低位推計」
 - ・「杉並区保健福祉事業概要」より合計特殊出生率推移（国・都・杉並区）

4 人口推計の設定条件

- (1) 出生数
過去の東京都及び杉並区の合計特殊出生率と、杉並区の女性子ども比率の比較から、杉並区の女性子ども比率の傾向を仮定し、「日本の都道府県別将来推計人口（社人研）」による東京都の合計特殊出生率の将来推計を基に杉並区の女性子ども比率を推計して、それを仮定値として出生数を推計した。
- (2) 出生性比
過去5年間の杉並区の出生性比の平均値から仮定した。（女1に対し、男1.062）
- (3) 生残率（死亡率）
平成12年都道府県別生命表（厚生労働省）から算定した生残率を使用した。
なお、過去の傾向からみて、都道府県の生残率を区市町村の生残率に置き換えても支障がないと仮定した。
- (4) 社会移動率（純移動率）
過去5年間の社会移動率の動向から、平成19年以降の社会移動率を男女年齢別に仮定した。
- (5) 見込まれる大規模な人口変動
推計期間中に大規模な団地開発があることが見込まれる、高井戸東一丁目地区・育英高専跡地の開発に伴う人口変動については、入居開始年とその翌年の推計人口に反映させた。

男女各計(人)

杉並区人口推計(中位推計)平成19~66年

男女計(人)

